

発達障害への理解深めて

「社会福祉法人こぶしの会」10年記念企画

多機能型事業所「コミュニケーションワークス」から（奈良市古市町、古木一夫施設長）などの運営を通して障害者の社会参加を支える「社会福祉法人こぶしの会」（藤井正紀理事長）が今年、法人設立10周年を迎える。記念企画第一弾として来月、発達障害のひとつであるディスレクシア（難読症）のある画家マッケンジー・ソープ氏（1956年、英国生まれ）の展覧会を開催。同法人はこの展覧会を「誰もが住みよい社会の実現」という理念の発信と発達障害への理解を広げる場にしたいと考えている。

（小幡直子）



マッケンジー・ソープ氏

ソープ氏は幼いころ、知的な遅れはないのに読み書きだけが困難な障害のため、無理な周囲から「怠け者」と責められた。やがて自信を失い「自分などいない方がよい」と思うようになったという。

難読症の英国人画家の来月、関西初の原画展

支援広げるきっかけに

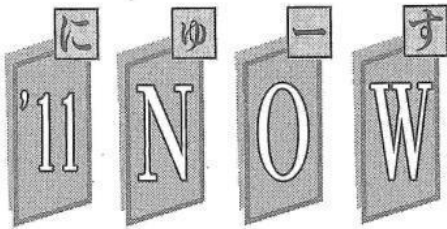


マッケンジー・ソープの「風に乗る希望」

同展は関西初の原画展。「無限の可能性」を象徴する頭の大きな子どものモチーフで知られる明るい雰囲気のある作品、陰うつな中にもひと筋の希望を感じさせる作品などソープ氏の生きざまが込められたパステル画約50点と版画、スカルプチャー（立体）約30点などを展示する。会期に合わせソープ氏も来県。子どもたちを対象にワークショップも開く。

見えにくく、困難なことの内容や程度も多様なため、周囲の誤解や無理解が社会参加の壁となることも多い。同会の角谷久美子副代表は「展覧展が発達障害への理解を広げるきっかけになれば」と話している。

「マッケンジー・ソープの世界展」（奈良新聞社など後援）は来月6～17日、奈良市登路町の県文化会館で開催。10日13～14時、サイン会。11日休館。一般700円、中学・高校生500円、小学生以下無料。前売りは各



と責められた。やがて自信を失い「自分などいない方がよい」と思うようになったという。

転機は20歳のとき。友人の勧めで美術学校

に入學し、才能が開花。各国で展覧展を開催し、2000年には英国の画廊組合1700社が選ぶベストセラライアーティストになった。

後援団体には発達障害の子を持つ親でつくる「奈良LD親の会、マッケンジー」も加わり、ワークショップのコーディネートなどを担う。電話0742(63)6765。

2000円引き。プレ絵画展を31日まで、奈良市の東向商店街内「きずなカフェ」で開催中。